和歌

後拾遺和歌集　―品詞分解―

男（格助・受対）に（ラ四・未）忘ら（受・用）れ（接助・単接）て（補動・ラ変・用（丁）撰者→読者）侍り（過・体）ける頃、貴船（格助・帰着）に（ラ変・用）参り（接助・単接）て、御手洗川（格助・場所）に蛍（格助・主格）の飛び（バ四・用）侍り（補動・ラ変・用（丁）撰者→読者）ける（過・体）を（格助・対象）見（マ上一・用）て（接助・単接）詠め（マ四・已）る（完・体）和泉式部もの思へ（ハ四・已）ば（接助・順偶）沢（格助・体修）の蛍（係助・強意）も我（代）が（格助・体修）身より（格助・起点）あくがれ出づる（ダ下二・体）魂か（係助・疑問）と（格助・引用）ぞ（係助・強意（係））見る（マ上一・体（結））

（巻二十・雑六・一一六二）

新古今和歌集 ―品詞分解―

男ども　詩　を　作り　て　歌　に　合はせ
（格助・対象／ラ四・用／接助・単接／サ下二・用）

侍り　し　こと　を　見渡せ　ば　山もと　霞む
（補動・ラ変・用（丁）撰者→読者／過・体／格助・対象／サ四・已／接助・順偶／マ四・体）

に、　水郷　の　春望　と　いふ
（格助・時間／格助・体修／格助・引用／ハ四・体）

後鳥羽上皇

なに　思ひ　けむ　見渡せ　ば　水無瀬川　夕べ　は　秋　と
（副／ハ四・用／過原推・体／サ四・已／接助・順偶／マ四・体／係助・区別／格助・引用）

（巻一・春上）

千五百番歌合　に、　春歌
（格助・時間）

見ゆる　雪　の　むら消え
（ヤ下二・体／格助・体修）

薄く　濃き　野辺　の　緑　の　若草　に
（形ク・用／形ク・体／格助・体修／格助・体修／格助・理由）

誰　か　また　花橘　に　思ひ出で　む　我　も
（係助・疑問（係）／副／格助・理由／ダ下二・未／推・体（結）／係助・同類）

昔　の　人　と　なり　な　ば
（格助・体修／格助・変化／ラ四・用／完・未／接助・順仮）

（巻三・夏）

宮内卿

跡　まで
（副助・限度）

（巻一・春上）

題知らず
（打・終）

藤原俊成

西行法師

勧め　て、　百首歌　詠ま　せ　侍り
（マ下二・用／接助・単接／マ四・未／使・用／補動・ラ変・用（丁）撰者→読者）

見渡せ　ば　花　も　紅葉　も　なかり　けり　浦　の　苫屋　の　秋　の　夕暮れ
（サ四・已／接助・順偶／係助・列挙／係助・列挙／形ク・用／詠・終／格助・体修／格助・体修／格助・体修）

（巻四・秋上）

摂政太政大臣家歌合　に（格助・時間）、　湖上　の（格助・体修）　冬　の（格助・体修）　月　藤原家隆

志賀　の（格助・体修）　浦　や（間助・詠嘆）　遠ざかりゆく（カ四・体）　波間　より（格助・起点）　凍り（ラ四・用）　て（接助・単接）

出づる（ダ下二・体）　有明　の（格助・体修）　月

（巻六・冬）

百首歌　の（格助・体修）　中　に（格助・場所）、　忍ぶる（バ上二・体）　恋　を（格助・対象）　式子内親王

玉　の（格助・体修）　緒　よ（間助・呼掛）　絶え（ヤ下二・用）　な（完・未）　ば（接助・順仮）　絶え（ヤ下二・用）　ね（完・命）

ながらへ（ハ下二・未）　ば（接助・順仮）　忍ぶる（バ上二・体）　こと　の（格助・主格）　弱り（ラ四・用）　もぞ（連語〔係助・同類＋係助・強意（係）〕）

する（サ変・体（結））

（巻十一・恋一）

東　の（格助・体修）　方　へ（格助・方向）　修行し（サ変・用）　侍り（補動・ラ変・用（丁）撰者→読者）　けり（過・体）　に（格助・時間）、

富士の山　を（格助・対象）　詠め（マ四・已）　る（完・体）　西行

風　に（格助・理由）　なびく（カ四・体）　富士　の（格助・体修）　煙　の（格助・主格）　空　に（格助・帰着）　消え（ヤ下二・用）

て（接助・単接）　ゆくへ　も（係助・同類）　知ら（ラ四・未）　ぬ（打・体）　わ（代）　が（格助・体修）　思ひ　かな（終助・詠嘆）

（巻十七・雑中）